



“よりよい社会の形成に向けた自律的ソフトウェアシステムの実現”

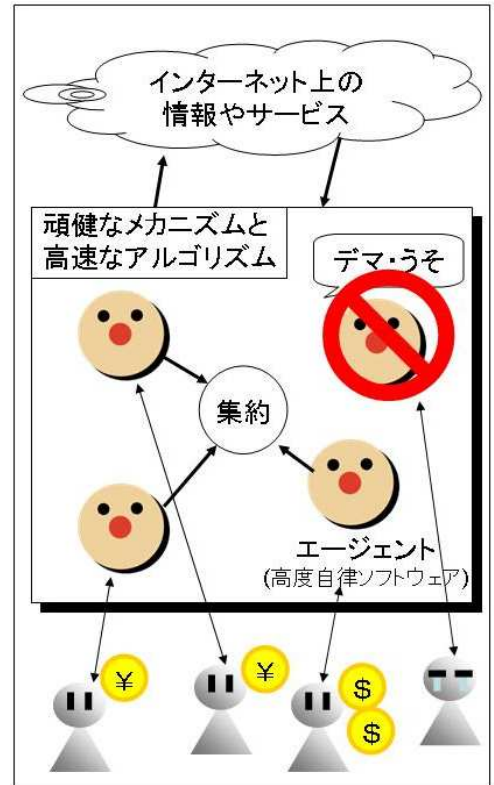
講師 福田 直樹 (知能情報学)

1974年生まれ。学生として大学在学時代当初より、あるソフトウェア開発会社に潜り込んで腕を磨く。2002年名古屋工業大学大学院博士課程修了、博士(工学)。
2002年静岡大学助手、2007年同大学助教、2010年同大学講師、現在に至る。

研究概要

2011年の震災で、世界中から集められた様々な情報がいろいろな場面で役立ちました。それには、TwitterやWikipediaに代表されるような仕組みによって、私たち一人一人が情報を発信できるようになり、その情報や知識の大規模な集積も可能となったことが大きな役割を果たしました。一方で、そうした地球規模でのモノや情報のやりとりを通じて、必要な人に必要なものが届くようにしながらも、ずるいや嘘をつく人たちが幅を利かせてしまうことがないような社会の仕組みを実現する重要性に気づかされました。

私は、こうした場面に役立つ技術、エージェントと呼ばれる自律的なソフトウェアの研究を進めてきました。我々を日々支える便利なソフトウェアを作る技術としてだけでなく、それらの自律的なソフトウェアが人間に代わって様々な振る舞いをする様子を観察することで、社会の仕組み作りをどのようにしていったらよいのかを考えていきます。



メッセージ

「ネット社会における究極の人工知能システムを作る」ということを、研究を始めた当初には目標にしていました。でも、震災を契機に、私たちがこれまでに気づいてきたいろいろな技術の限界や問題点をあらためてみつめる必要性に気づかされました。コンピュータがどんなに賢くなっても、それらが世界中でつながっても、人が世の中の主役であることは変わらないと思います。だからこそ、適切な技術の手助けによって、今まで以上にみんなの力が上手に発揮できるように、それがきちんと報われるようにできると思っています。みんなが幸せになれるような社会を自然と実現していけるような仕組みや方法を、高度なソフトウェアの力も借りながら作る。そうした目的に役立つような、高度なソフトウェア技術実現に向けた研究を、続けていきたいと思っています。

【主な研究業績】

受賞暦・学会：2012年3月山下記念研究賞受賞、2013年情報処理学会論文誌編集委員会知能グループ主査、など。

代表的な著書・論文：

- 1) N. Fukuta, "An Approach to VCG-like Approximate Allocation and Pricing for Large-scale Multi-unit Combinatorial Auctions", *Journal of Information Processing*, Vol. 21, No. 1, pp. 9--15, 2013.
- 2) N. Fukuta, "A Mobile Agent Approach for P2P-based Semantic File Retrieval", *Journal of Information Processing*, Vol. 20, No. 3, pp. 607--613, 2012.

3) Q. Bai, and N. Fukuta (Eds.), "Advances in Practical Multi-Agent Systems", *Studies in Computational Intelligence*, Vol. 325, 2011.